

令和4年度第2回向日市障害者計画策定委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年2月10日（金）午前10時から正午まで
- 2 場 所 向日市福祉会館 3階 大会議室
- 3 出席者 (委員) 16名
拾井委員（委員長）、大橋委員、山本委員、久保川委員、増田委員
稲葉委員、井上委員、上田委員、清水委員、下村委員、岡田委員
三宅委員、辻委員、田中委員、夏川委員、桶谷委員
(事務局) 8名
山田市民サービス部長、安田同部副部長
岡本障がい者支援課長、依田同課主幹、宮川同課係長、山田同課担当係長
森同課主任、藤田同課主査
(傍聴者) なし
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画に係る障がい者実態把握調査の調査結果について
 - イ 第3次向日市障がい者計画、第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児計画の進捗状況について
 - ウ その他

【概要】

(1) 開会

(2) 議事

ア 第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画に係る障がい者実態把握調査の調査結果について

事務局から第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画策定のためのアンケート調査について、調査結果の報告を行った。

<意見の要旨>

<委員>：相談支援体制の充実が必要との回答について、充実というのは何を求められているか把握しているか。

<事務局>：理由まで聞いていないので詳細はわからないが、自由記述の設問でどこに相談したらいいかわからないという意見がいくつかあったので、相談窓口の周知が不十分なのではないかと感じている。

<委員長>：相談の対応で何か意見をいただいていることはあるか。

<事務局>：相談支援事業所は市と連携して動いている。市民の方から納得できない説明があったという声はあまり聞かない。

<委員>：チラシなどを広く配布することも大事だと思う。年に1回ぐらいは何か伺うことはないか問いかけをしてもいい。

<事務局>：アンケートを送るときに、お困りのことはございませんかみたいなことを設けるなど考えてみたい。

<委員>：放課後等デイサービスを利用している子どもが卒業した後どんな生活をするのか心配している。A型に就職すると週20時間の仕事が多いと聞いており、1日4時間だと家族も仕事を続けられるか不安がある。

災害時の避難についての設問で、自宅で過ごすという回答が多いが、たぶん全員の方が困っていると思うので、その回答で大丈夫と捉えないでほしい。

<事務局>：自宅という回答が多いから大丈夫とは考えていない。今後詰めていかないとはいけませんが、事業所と協定を結んでいる福祉避難所があるので、そこへ避難していただくことも考えていかないとはいけない。

<委員長>：災害時の問題は支援者なので、避難行動要支援者事業をさらに深めていく、徹底していくことが今の制度としては一番近いと思う。

<委員>：実際には福祉避難所はすぐに開設されず、一度避難所に行ってから分けられるという話を聞くので、簡単に福祉避難所があると言ってほしくない。

民生委員とは面識がなく、自分の地域にどんな方がいるか知らないので、市役所と連携してないのではと感じる。

18歳になって社会に出る障がい者の人たちに対してどういう支援をしていくのか。向日が丘支援学校の寄宿舎もなくなり、ショートステイもない中でアンケートをどういうふうに見ていくのか、課題として読み取っていただきたい。

<委員長>：発災時は個々で何とか避難しないと難しいが、そこから先は行政が人と場所をどう確保するのか、平常時から考えておかないと厳しいと思う。要支援者向けの防災訓練を年に1回でもやってみて、うまくいかななくても繰り返していったら、お互い信頼関係ができていくと思う。

<委員>：自立支援協議会の事務局をしているが、若い方の関心が低く、周知が難しいと感じている。

卒業後に週20時間しか働けないということについては、厚労省で短時間労働の助成金の制度があり、働くことを後押ししている。いっぺんに就職ではなくて、福祉のサービスを併用しながらということも出てくると思う。

長岡京市が重層的な支援を整備するというところで協力を求められ、NPO法人を中心に今週に1回目のネットワークが開催された。民生委員や商店街の方など立場の違う人が話し合った中で、福祉に関わる行政や専門の職員に頼るのではなく、地域の中でお互い助け合って気持ちよく生きていけるようにしていかないといけないという意見が出た。

当事者のネットワーク、家族のネットワーク、支援者のネットワークの3つの居場所が必要になってくるという話もあった。

今回のネットワークには、子育て中のお母さんや行政の方、家庭支援総合センターの方などいろんな方が来られており、向日市の職員さんにも興味を持ってぜひ参加して支えていただけたらありがたい。

<委員>：私は民生児童委員連絡協議会の会長もしており、この民生児童委員は何町の何番地を担当しているということを向日市の広報誌でお知らせしているのを見ていただきたい。ただ、実際に皆さんに知っていただいているかという点と十分とは言えない面も当然あると思うので努力していきたい。

我々はどなたが障がい者か把握しておらず、高齢者で専門職と繋がりのない方の相談とか支援に重点がいつているところがある。できれば民生委員のところに相談をいただいとおくとありがたい。防災訓練とか自治会の集まりとかに参加して知っておいてもらえば、災害時に助ける方が出てくると思う。

民生委員も災害が起こった時にどのように対処したらいいか課題になっており、民生委員に対してはまず自分の安全を考え、市からこの方がどこにいるかわからないという時に探してくれと伝えている。

民生委員は女性が多く、高齢の方も結構いるので、実際にどれぐらい助けることができるかというのも非常に課題であることをご理解いただきたい。

<事務局>：要支援者名簿は何年も前に整備を進めているが、実効性があるかというところは非常に課題であると認識している。助けを必要とする方と支援できる方の人数のバランスもあり、どうしたらいいか模索しているところであり、今より実効性のある名簿を整理して、地震や大雨の時にどうしたらいいかというのを一つずつ積み上げる必要がある。防災部局と一緒に予算を確保して進めていきたい。

地域の支え合いが非常に大事であり、誰かを支える認識を持ってもらうような啓発や声かけを市としてもっとしていかないといけない。

親御さんの不安ということに関して、地域ごとにケースワーカーがおり、0歳のお子さんから18歳以降の大人の方も含めて担当している。また、サービス利用の方には計画相談員がおり、連携して18歳になる前に必要な手続き漏れがないようにしたり、職員が障害支援区分の調査等もしているので、いろんなことをお話していただければと思う。

卒業後の支援については、お子さんのケースに合わせてプランを組み立てていく中で一緒に相談している。家族と本人と支援者も含めて連携して一生懸命やっているのも、何かあればいつでも問い合わせしてほしい。

先ほど委員から話の合ったネットワーク会議については、障がい者支援課の職員が参加する予定だったが、体調不良のため行けなかった。そういった会議にも参加するなど、市としてやれることはさせていただく。

<委員>：「医療に関わるにあたり困っていること」の設問で、「その他」というのは文章で内容が書かれているのか。

<事務局>：内容はわからない。

<委員>：障がい者の歯科治療に関して積極的な方とそうでない方がいるが、1人2人の先生でも、これならできるということがあれば随分変わると思うので、できれば内容がわかるような形でお願いしたい。

イ 第3次向日市障がい者計画、第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児計画の進捗状況について

事務局から各計画の進捗状況について報告を行った。

<意見の要旨>

<委員>：公共施設のバリアフリー化について、学校は災害避難場所になると思うが、多目的トイレを車椅子で外から入れるようにしてほしい。

<事務局>：今年、外から入れるように多目的トイレを作った学校があり、順次教育の方で進めるといふふうに聞いている。

<委員>：民間福祉施設運営費補助金はどういう金額か。

地域生活支援拠点の整備について共有を図っているとあるが、長岡京市の共生型福祉施設に補助金等も負担するのかなど、その辺について少し話を聞きたい。

<事務局>：補助金の金額については、それぞれの社会福祉法人が施設を建設された時の借入金の元利金に対する補助金である。

長岡京市の共生型福祉施設については、今内容の調整をしていると聞いている。実際の事業内容についても児童発達支援センターやグループホームを建てるというのは要件に入っているが、最終的にどれぐらいの定員でどういう形になるのかは調整中なので、またわかれば共有していく。皆さんにお知らせする場を設けてもらいたいということは長岡京市に申し入れをしている。

<委員>：事業者のアンケートで今後新たに予定しているサービスを見ると希望を持ち、認識の共有ということで一緒にやっているということで理解している。

長岡京市に情報公開請求し説明を受けたが、課長会議等で共有し、向日市に聞いたなら長岡京市に聞かなくても説明してもらえるようになっているとのことだったので、そういうことも含めてちゃんとやっていただけたらありがたい。

<事務局>：情報共有させていただき、同じ情報で進めていければと思う。

<委員>：「学校教育における相互理解の促進と福祉教育の推進」について、支援学校と向日市の居住地校交流をさせていただき、小学校の子どもたちも喜んでいて、いい経験ができて、友達が増えてうれしいという意見もあったので、こういう交流を大事にしていきたい。また、災害時の避難にも繋がっていくのではないかなと思う。

<委員>：避難行動要支援者名簿の話だが、保健所では福祉避難所の運営サポーターの養成研修をしている。名簿を整備して個別避難計画に進んでいただく形で、人数も多く一気になかなかいかない状況であるが、向日市としてどのようなスケジュールで調整しているか教えてほしい。

<事務局>：今まで縦割りでなかなか進んでなかったというのがあり、それをフラットにし

て、高齢者の方、障がいのある方、防災の関係と民生委員を所管している地域福祉課、関係する所すべてを含んで土台に立ったところである。具体的なスケジュールについてはまだ決まっていない状況である。

<委員>：生活介護とか共同生活援助もそうだが、医療的ケアのある方、行動障害のある方の受け皿が圧倒的に少ない。今後事業の展開をしていくにも場所と人が足りない。これから子どもが減っていく中で、担い手をどのように育てて確保していくのかは本当に課題だと思う。

人材の確保というのを系統的に考えていかないと多分回らないので、職員の給料を含めて担保してもらえるような制度設計をしていただきたい。

<委員>：知的の方の入所施設がない。支援学校の寄宿舎が3月で終わってしまう。24時間365日受け入れのグループホームが難しい。医療的ケアの必要な方、強度行動障害のある方の親御さんのレスパイトの場もない。親御さんが高齢化していく中で、そこがすごく大きいと思う。今のところを見るだけでなく、もうちょっと先のところを見ていかないと難しい。

相談支援の充実で言うと、支援対象者の増加に対応できるような形で相談支援専門員が配置されていくのかというところがある。待機が出ているとよく聞くので、速やかにサービスに繋がるように考えていかないといけない。

障がいのある方の就労を支援していくことが大事だと思うが、重度障がい者の就労支援事業を長岡京市が先駆けて今年度からしている。希望している方がいるのでぜひ検討していただきたい。

ウ その他

事務局から今後のスケジュールについて説明した。